

Biodata Bank, Inc.

PRESS RELEASE

vol.
005

吹田市における部活動を行う中学生に対する リストバンド型熱中症対策デバイスを用いた実証実験の実施

Biodata Bank 株式会社(代表取締役社長：安才武志)では吹田市において、市内の中学校の部活動参加者を対象にリストバンド型熱中症対策デバイス『Biodata Band』を活用した、個人の特性にフォーカスした熱中症予防の実証実験(以下、「本実験」という)を実施いたします。本デバイスは環境省の「平成31年度熱中症予防対策ガイドンス策定に係る実証事業」で使用される機器として採択されております。これまでの WBGT を用いたマスをターゲットに行う熱中症対策から、技術の進歩から可能となった個人をターゲットに行う新しい熱中症対策を普及させていくことを目的とする実証実験です。

本実験の 概要

期 間：2019年8月中
場 所：吹田市
対 象 者：吹田市内中学校で部活動を行う生徒
実施主体：Biodata Bank 株式会社、吹田市教育委員会
責 任 者：安才武志(Biodata Bank 株式会社代表取締役社長)
田淵真司(吹田市教育委員会学校教育部指導室)

吹田市



Biodata Bank, Inc.

本実験の目的、内容、期待される効果

近年夏季においては気温が上昇し、部活動を行う生徒の熱中症リスクが高まります。まだ身体的に未成熟である中学生はリスクが比較的高く、実際に熱中症様症状で保健室の利用や、救急搬送を要する場合があります。そのような暑熱環境下で、熱中症の直接的要因である深部体温という部分に着目し、深部体温の上昇から熱中症になる前にアラートを鳴らすことで主体的な熱中症対策（スポーツ飲料水を飲む・涼しい場所で休む等）を促すリストバンド型熱中症対策デバイス*『Biodata Band』を配布することで、生徒個人々人にかかる熱負荷を可視化し、暑い日のイベントや活動を「一律で中止にする」といった機会損失を減らし、安全に部活動を行える事の一助となることを目指します。また熱中症に対する人々の意識、態度、そして行動の変化を分析し、新たな熱中症対策の提案と社会実装につなげることが目的です。

本実験の具体的な流れは下記の通り予定しております。

- 1 対象者に対してデバイスの取扱、実証実験の目的 / 意義に関しての説明を行う。
- ↓
- 2 年齢・性別などの情報をアンケートにより取得。
未成年者であるため保護者の同意を得る。
- ↓
- 3 デバイスを配布し、装着していただく。
- ↓
- 4 デバイスを装着した日の状況・行動およびデバイスの装着感・使用感をアンケートにより調査。
- ↓
- 5 回収したデバイスからデータを採取。アンケート内容と照合し、統計学的に解析。
- ↓
- 6 共同する機関に対して結果を報告。



本実験により、暑熱環境下における生徒個人々人にかかる負荷と身体の状況、そしてアラートによる意識の変化と行動変容が明らかになり、個人のバイタルデータと連動した新たな熱中症対策の構築が進展し、ガイダンス策定などその社会実装に向けた道筋が具体化されます。

図：配布する『Biodata Band』

本件に関する
お問い合わせ先

Biodata Bank 株式会社

担当：塩谷隆太（メディカルラボ統括責任者）

電話：03-6416-4924 Email: shioya@biodatabank.co.jp HP: <https://biodatabank.co.jp/>